

さたけてるゆき通信

(第1号 5月28日号)

当院院長の「さたけてるゆき (佐武晃幸)」の後援会が設立されました。

私、さたけてるゆきの想いに共感し、活動を支援していただける方は、是非お気軽にお声掛けいただけるとうれしいです。

☆ ご協力をお願いしたいこと

1. ご家族やお知り合いへの紹介
2. ミニ集会企画・参加へのご協力
3. 後援会連絡所看板の設置

(右イメージ図、150X40cmの大きさ)

☆ 後援会に参加していただけるだけでうれしいです。

後援会登録は、裏面の必要事項にご記入いただき、クリニックのスタッフにこの用紙ごとお渡しいただくか、右QRコードを読み取っていただき、登録サイトからご登録ください。(会費は不要です)

(裏面もあります)



さたけてるゆきが長浜のために行動する理由

去る5月26日、病院の統合・再編問題を先送りする報道がなされました。しかし私は、湖北の問題は単なる病院の赤字や統合問題ではないと考えています。本質は、高齢化する地域を支える「医療・介護・生活支援の供給網」そのものが細っていることです。

今、湖北では、

- 病院
- 介護施設
- 在宅医療
- 訪問看護・訪問介護
- 独居高齢者や老々世帯への生活支援・移動支援

が、それぞれ十分につながらないまま、限界に近づいています。

一方で、行政は赤字を理由に病院経営から距離を置こうとしており、湖北病院の建て替えも予算不足を理由に先送りされています。

しかし、このままでは病院機能そのものが立ち行かなくなる危険があります。また、退院後の受け皿となる介護施設や在宅医療・介護も十分ではありません。

実際、滋賀県全体でも介護人材不足は深刻化しており、県資料では2026年度に約1,900人不足、2040年度には約10,500人不足すると見込まれています。

湖北では、地理条件や高齢化率の高さから、さらに厳しい状況が予想されます。

今後、十分な受け皿を整えないまま急性期病院の再編が進めば、退院の早期化

- 回復期病棟・老健・訪問看護・訪問介護の不足
- 自宅や施設で支えきれない高齢者の増加
- 救急搬送・再入院の増加
- 病院機能のさらなる逼迫

という悪循環に陥ります。これが、湖北の医療・介護問題における最悪のシナリオです。

本来必要なのは、湖北全体で、
救急 → 急性期 → 回復期 → 介護 → 在宅 → 生活支援 → 看取り
までを、一つの地域医療・介護導線として設計することです。

また、働き盛りの世代に対しても、

- 救急医療体制の充実
- 健診の充実による悪性疾患の早期発見・早期治療
- 生活習慣病に対する、地域の診療所と病院の一層の連携強化を進めなければなりません。

しかし現在、その全体像を示し、実行する体制は不十分です。残念ながら、合併問題を先送りするだけでは、将来の湖北に展望はありません。私は、この問題に真正面から取り組み、湖北で誰もが安心して生き続けられる未来をつくりたいと思います。

私は、医療だけを守るのではなく、“地域で生きる力”そのものを守りたいと思います。

湖北の事実

長浜市湖北町には以前は村の合併統合の名残で、速水、朝日、小谷の3ヶ所に駐在所がありました。

しかし、この数年で速水と朝日の駐在所はなくなり、更地にもどりました。長年、地域の安心を支えてきた場所がなくなり、住民の間では「これから大丈夫だろうか」という不安の声もあります。

最近では当地でも窃盗・空き巣犯罪が増加し、その不安感は身近に存在します。

事実、令和6年に滋賀県で警察関連の計画が変わり、地域から駐在所が消え、交番所へ統合されました。駐在所がなくなったからといって、すぐに治安が悪化するとは限りませんが、事実令和7年犯罪発生件数は700件と5年前の平成2年の448件に比べ5割以上増えています。

駐在所がなくなったことで、身近に警察官がいる安心感が失われたことは、地域にとって大きな不安です。

安心して暮らせるまちを守るために、地域の声を届けていきたいのです。

時点	警察署	交番・警部交番	駐在所	合計	(参考資料；湖北地域 長浜木之本警察署管内における推移)
平成30年	2	3	22	27	
令和8年3月25日以降	2	7	11	20	

湖北紹介

(私の好きなところを主観で紹介します。)

◎ 木之本地蔵院の御戒壇巡り

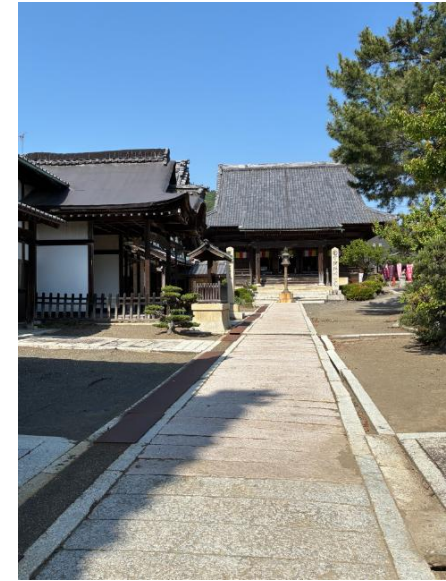
木之本地蔵院の御戒壇巡り。入口に立った瞬間から、外の光が遠のき漆黒の中を進んでいく。本堂の下、真っ暗な回廊を右手で腰の高さを壁に触れながら、一步ずつ進む時間。暗闇で手の感覚、そして自分の感覚が驚くほど研ぎ澄まされていく。

長野県・善光寺にもお戒壇巡りがあり、「牛に引かれて善光寺参り」という諺もあるほど、全国から参拝者を集めています。善光寺は、御本尊の真下を通る暗闇の中で「極楽の錠前」を探り、触れることで御本尊とのご縁を結ぶとされています。

木之本地蔵院では、闇の先にある錠前は秘仏・木之本地蔵大菩薩と深く結ばれた「祈りの鍵」とされ、心に念じた願いを仏さまへ届けるものと伝えられています。

平日は参拝券や受付スタッフもおらず、300円を投入する奉納箱だけが置かれているので小銭を持参してください。漆黒の通路は31間で善光寺の25間より長く、このような漆黒の戒壇院めぐりは全国でも11ヶ所しかありません。

木之本地蔵院、ぜひ参拝してみてください。



(さたけてるゆき後援会申込書)

さたけてるゆき後援活動について下記の通り申込みます。

◎個人情報の取り扱いへの同意について

下記の個人情報の取り扱いに同意します。

ご記入いただいた個人情報は、後援会活動に関するご連絡、活動案内、確認業務のために使用し、適切に管理します。ご本人の同意なくご入力いただいた個人情報を第三者へ提供することはありません。

(同意いただける場合、に✓を入れてください)

(ふりかな)			生年 月日	大正・昭和・平成 年 月 日
お名前				
ご住所	〒	—	性別	男・女
ご連絡先	<input type="checkbox"/> 電話番号	-	-	
	<input type="checkbox"/> メールアドレス		@	
応援・ご参加いただけること	<input type="checkbox"/> 後援会の入会を希望する	<input type="checkbox"/> チラシ・ポスターの配布に協力できる		
	<input type="checkbox"/> 知人・友人に紹介できる	<input type="checkbox"/> 集会・ミニイベントに参加したい		
	<input type="checkbox"/> 立て看板の自宅設置に協力できる	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> ポスターの自宅掲示に協力できる	()
上記で当てはまるものすべてに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください。				

さたけてるゆき後援会 事務局 長浜市湖北町速水 2778 みやこクリニック内